

地域おこし協力隊

山深いこの場所で 自然の力でお茶を育てたい 3年間を振り返って

この度、3月末で地域おこし協力隊の任期を満了し、退任いたします。四国中央市では、初の協力隊ということもあり、戸惑うこともありました。地域の方々に温かく迎えて頂き、支えてもらい、無事に任期満了を迎えることができました。

任期1年目は、地域やお茶産業を知ることから始まり、2年目からはお茶畑を管理し、お茶の栽培に取り組みました。そして任期最終年である3年目は、5月に地域の方々に協力を頂きながら自分で栽培したお茶を収穫し、JAで加工しました。茶葉が出来上がった時は感無量でした。そのお茶をイベントで試飲、販売し、とても好評を頂き、これからのお茶栽培にとっても励みになりました。



地域の方に教えてもらいながらの剪定作業



出来上がった井内茶



井内ひとみさん (新宮地域)

今後の活動について

任期満了後についてですが、これからも新宮地域で生活しながら、お茶の栽培を行っていきたくと思っています。また昨年、産業祭などのイベントで販売して大変好評だったお茶の根を使用したストラップや、新宮の草花を使用したストラップ、お茶の葉を使用したハーバリウムポールペンなどの小物をこれからも制作、販売し、新宮地域の魅力を少しでも発信し、地域おこしに協力できたらいいなと思っています。

最後になりましたが、地域の方々、関係者の方々、そしてお茶畑を貸して下さった方にはとても感謝しております。本当にありがとうございました。そして今後よろしくお願いたします。



あじさいと茶葉のストラップ

4人それぞれの これまでとこれから

この地域での挑戦!

3年間を振り返って

振り返れば、着任したのがもう3年も前なのが信じられません。そのくらい、今までの人生で充実している時間でした。

1年目は地域の方と、どのように接していいのか戸惑い、また地域の方も、移住者にどう接していいのか戸惑っていたと思います。

しかし2年目には祭事などをはじめ、地域の一員として受け入れてもらえるようになり、今ではずすといて欲しいとまで言ってもらえる方もいるようになりました。

地域おこし協力隊として、目に見える派手な成果ではありませんが、これもまた一つの成果として誇れるものだと思います。残り少ない任期にはなりませんが、地域にも自分にも今後へつなげる成果を残せるようにしたいと思います。



整備したサイクルオアシスの前で



地域の間伐材で試作中のスウェーデンオーチ



菊池 睦さん (金砂・富郷地区)

今後の活動について

今年度いっぱい協力隊としての任期は満了となります。その先については、実はまだはっきりと決めていないわけではありませんが、金砂・富郷地区に住んでいるだろうなと思っています。

そもそも協力隊になった当初から、この地域に住むことが目的だったので、仕事は市街地へ通勤してもいいと思っています。市街地なら仕事はたくさんありますからね。

とはいえ、やはり地域でなにかしたいという本音もあり、この地域の活性化のために何ができるか考えてみようと思っています。

今後、どういう形になるかはわかりませんが、何らかの仕事で生活は維持しながら挑戦してみようと思っていますので、どうぞ期待ください!



軽トラで移動ができるマイピザ窯

「半農半X」という暮らし方

3年間を振り返って

地域おこし協力隊として着任した1年目は、地域の方々に受け入れてもらうために、思いつくままさまざまなことをしました。集落内の市道の補修作業などの力仕事や、荒れたお茶畑とハナシバ畑の再生にも携わり、のこぎり片手に奮闘したこともありました。2年目からは、活動の内容も農作業支援と農作物の栽培が主軸となり「お茶摘み」「ハナシバ」「稲刈り」などの支援や、貸していた農地で野菜を栽培し、収穫した野菜を利用したピザ焼き体験イベントの開催や、収穫物の販売などを行うことができました。

また3年間を通じて、地域内外のさまざまなイベントなどにも参加し、多くの方々との交流を持てたことは大変有難い経験となりました。



ピザ焼き体験イベントの様子



種芋をもらって試作したつくね芋



古沖真智子さん (金砂・富郷地区)

今後の活動について

東京で移住を考えていた時に出会った言葉に「半農半X」というものがありました。自分が食べる分くらい半自給的な農業に携わりながら、あとの半分は自分の好きなこと、得意分野で仕事をするという生き方です。

農のある暮らしをしていきたいと思ったのが移住の大きな目的でもあったため、四国中央市で地域おこし協力隊として活動する中で、農業支援や農作物の栽培に携われたことは大変充実した日々でした。現時点で今後については明確に決まっていますが、当初の目標通り、愛媛県内において「半農半X」という暮らし方をしたいと思っています。



着任当初からしていたお茶摘み

狩猟が暮らしの一部である生活がしたい

2年間を振り返って

平成30年5月から、新宮地域で有害鳥獣対策を担当しています。近年、動物による農作物などへの被害は大きな地域課題となっているため、イノシシやシカ、サルなどの捕獲活動や対策の相談窓口となるなどとして、被害防止に努めています。

山での作業は想像以上に大変ですが、協力隊の活動を通して地域のみなさんと交流することができ、みなさんの力添えのおかげで、楽しくイキキと活動出来ています。

また、県が主催する鳥獣害対策の専門家を育成する講座に参加し、さまざまな対策や事例を学ぶことができましたので、どんどん地域に還元していきたいです。



イノシシを捕獲中



捕獲用の箱罠を設置



青木 藍さん (新宮地域)

今後の活動について

新宮地域ではサルによる被害が増大していて、有効な対策の導入に協力していきたいと考えています。最近では、人里近くでのイノシシ、シカ、サルなどの目撃も増えているため、大きな被害が出る前に、地域のみなさんと連携して捕獲活動を行うことで、生活の安心、安全を守りたいと思っています。

さらに、これまで教えていただいた知識や技術を伝え、新たな狩猟の担い手の育成にも携わっていきたくと考えています。

他にも捕獲鳥獣の有効活用として、イノシシの脂を活用した石けんづくりに取り組んでいて、商品化を目指しています。

今後は有害鳥獣対策への理解の拡大や、捕獲鳥獣の有効活用の活性化など、新しい取り組みを行っていきたくと思っています。



石けん作り教室の様子